

[成果情報名] 雲仙普賢岳火山灰荒廃地への植栽における樹種と客土効果

[要約] 雲仙普賢岳火山灰荒廃地への植栽において、アカマツ、クヌギ、ヤマザクラ、ヤマハギ、ネズミモチ、ヤマハゼは客土をしなくても 80%以上の生存率が得られ、ヤマボウシは6リットル/本の客土で生存率が25%向上する。

[キーワード] 火山灰荒廃地、植栽、客土、生存率

[担当] 長崎総農林試・林業部・森林資源利用科

[連絡先] 電話 0957-26-3330、電子メール ringyou@afes.pref.nagasaki.jp

[区分] 森林機能保全

[分類] 普及

[背景・ねらい]

雲仙普賢岳周辺の火山性荒廃地は、航空緑化工により第一段階の緑化がほぼ完了している。しかし、現在のままでは、草本類や一部の先駆木本樹種といった単純な植生であるため、防災・景観の面から、郷土木本種を主体とした多様な植生群落を形成することが期待されている。そこで、郷土種を主体とした15樹種について効果的な植栽方法を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. アカマツ、クヌギ、ヤマザクラ、ヤマハギ、ネズミモチ、ヤマハゼは客土量に関わらず、80%以上の生存率であり、客土をしなくても高い生存率が得られる。
2. ヤマボウシは生存率における客土効果が大きく、6リットル/本の客土で25%生存率向上が図られる。
3. タブノキ、クスノキは客土により生存率の向上が図られるものの、先枯れ・萌芽を繰り返し、初期成長が望めない。
4. ヤシャブシ、ヤブツバキ、ヤマモモは客土量におけるどの条件においても生存率が50%を下回っている。

[成果の活用面・留意点]

- ・ 雲仙普賢岳火山性荒廃地への植栽の際、客土搬入が困難な場合、アカマツ、クヌギ、ヤマザクラ、ヤマハギ、ネズミモチ、ヤマハゼを植栽樹種として選定する。
- ・ ヤマボウシを植栽する場合、客土を行う。
- ・ 垂木台地のシルト質土壌堆積地への植栽に適用でき、砂礫質土壌堆積地については、水無川において試験を実施中であり、この結果を考慮する必要がある。

[具体的データ]

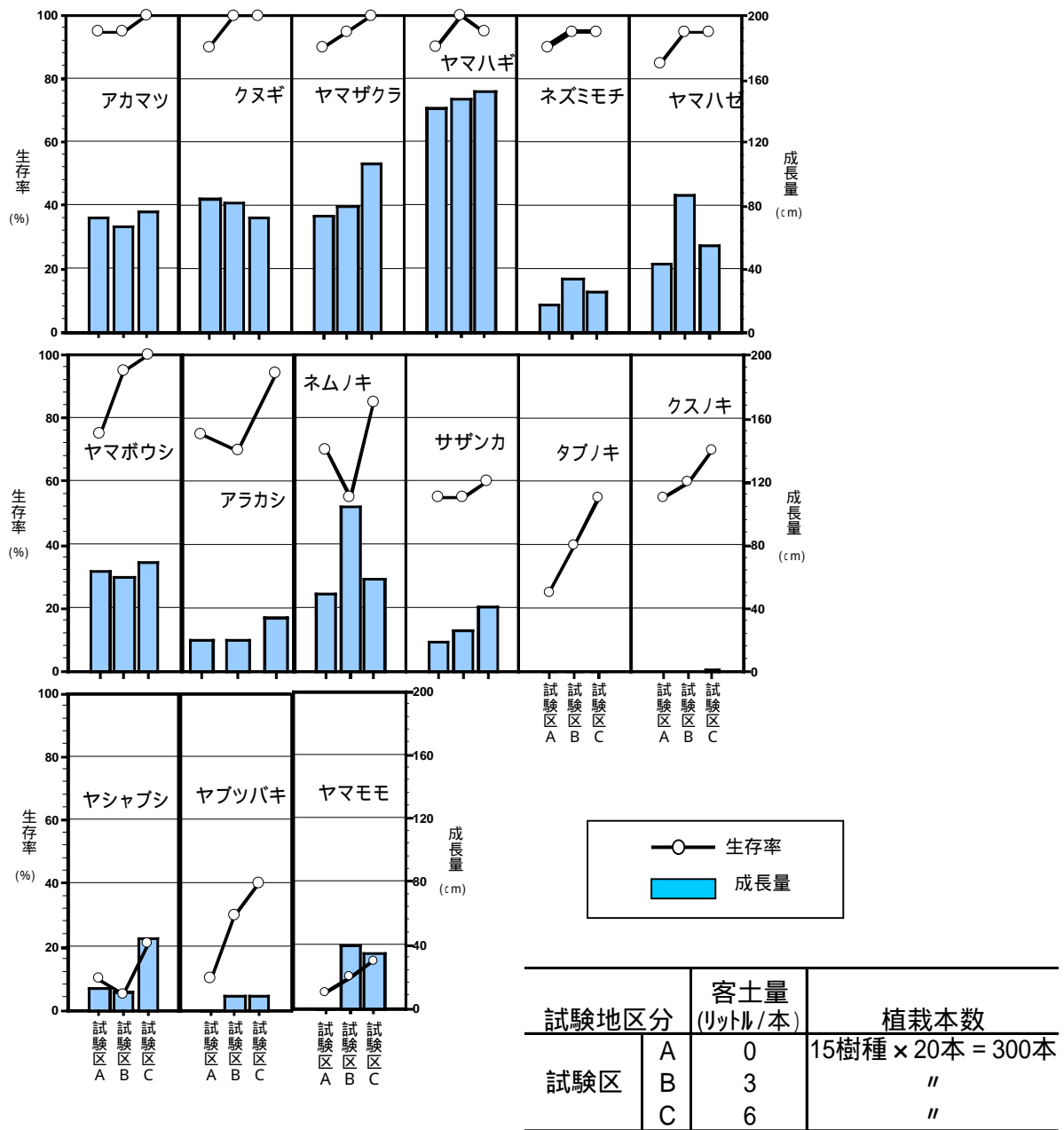


図 1 各樹種の生存率および成長量

客土は山土を使用

苗木はすべてポット苗使用，遅効性化成肥料を施肥

[その他]

研究課題名：雲仙普賢岳火山灰荒廃地における植生導入試験

予算区分：県単

研究期間：1998～2002年度

研究担当者：野崎美和

発表論文等：九州森林研究第56号